

AASL 学習者基準の全体像

東山 由依（昭和女子大学助手）

昭和女子大学で助手をしております、東山と申します。私からは、主に、今回翻訳した学習者基準の全体像についてお話ししたいと思います。

まず、新しい基準を理解するにあたって、現在までに公開されてきたホームページや論考にはこのようなものがありますのでご紹介します。今日は詳細については紹介しないのですが、アメリカ・スクール・ライブラリアン協会（American Association of School Librarians: AASL）が出している公式のホームページ¹⁾、それから日本語で読めるものとしては以下の三つの論考²⁾がありますので、ご覧になっていただければと思います³⁾。



（※その後、当日のセミナーでは、AASLの公式サイトにて公開している、基準を紹介する動画“AASL Standards - Standards Structure” <https://www.youtube.com/watch?v=LwuJgX9wxgA&feature=youtu.be> の一部を視聴。）

今回、アメリカ図書館協会（American Library Association: ALA）傘下の、アメリカ・スクール・ライブラリアン協会（AASL）によって、新しい基準である『学習者、スクール・

ライブラリアン、学校図書館の全国学校図書館基準』（“National School Library Standards for Learners, School Librarians, and School Libraries”）が2017年11月に公開され、2018年に刊行されました。今まで三つに分かれていた、『21世紀の学習者基準』（“AASL Standards for the 21st-Century Learner”）、『21世紀を生きる学習者のための活動基準』（“Standards for the 21st Century Learner in Action”）、『学校図書館メディアプログラムのためのガイドライン』（“Empowering Learners: Guidelines for School Library Media Programs”）というこれまでの基準やガイドラインが統合されて、1冊のテキストとなりました。かなり厚いものになっています。

今回の新しい基準、『学習者、スクー

新基準を理解する

- AASL公式ポータルサイト
➤ <https://standards.aasl.org/>
- 論考
 - 大城善盛、坂下直子「学習者、学校図書館員、学校図書館のための全米学校図書館基準：フレームワークを中心とした分析」『図書館界』72(2), 2020.7, p.89-95.
 - 中島幸子、坂下直子、大城善盛「AASL『新学校図書館基準』の概要と意義」『Journal of I-LISS Japan』2(2), 2020.3, p.12-22.
 - 中村百合子「米図書館協会による新学校図書館基準<文献紹介>」『カレントアウェアネス-E』No.343, 2018.3.

今回の基準は…（1）

- 2017年11月、アメリカ・スクール・ライブラリアン協会（AASL）が、新しい学校図書館基準
“National School Library Standards for Learners, School Librarians, and School Libraries”
を発表（刊行は2018年）
- “AASL Standards for the 21st-Century Learner”、
“Standards in Action”、“Empowering Learners”
の三つに分かれていたこれまでの基準・ガイドラインを統合、
改定し、1冊のテキストとなった。

<http://www.ala.org/news/member-news/2017/11/aasl-announces-new-national-school-library-standards-learners-school-librarians>

ル・ライブラリアン、学校図書館の全国学校図書館基準』は、基準に関連した活動が相互に強め合うことを保証しながら、学習者、スクール・ライブラリアン、学校図書館の三つの基準すべてを横断することの重要性を強調しています。

そして、この「AASL学習者基準フレームワーク（AASL Standards Framework for Learners）」のパンフレットは、全部で8ページありますが、児童・生徒やその他の学習者と使う基準フレームワークを提示しています。学習者、図書館員、図書館のつながりを示すことによって、教えることと学ぶことへの総合的なアプローチを反映しているもので、このパンフレットは、教育者がAASLの学習者基準を参照できるように作られていますとされています。

今回の基準は…（2）

・新基準、
“AASL Standards Framework for learners, school librarians, and school libraries”

は、基準に関連した活動が相互に強め合うことを保証しながら、三つの基準すべての重要性を強調している。

<http://www.ala.org/news/member-news/2017/11/aasl-announces-new-national-school-library-standards-learners-school-librarians>

AASL基準フレームワークとは

- ・「AASL学習者基準フレームワーク」のパンフレットは、児童・生徒やその他の学習者と使う基準フレームワークを提示
- ・学習者、図書館員、図書館のつながりを示すことによって、教えることと学ぶことへの総合的なアプローチを反映
- ・このパンフレットは、教育者がAASLの学習者基準を参照できるように作られている。

Common Beliefs（共有している信念）

よく準備のできた学習者、能力のあるスクール・ライブラリアン、ダイナミックな学校図書館の質をどのように定義しますか？

この基準を改訂する過程で、アメリカ・スクール・ライブラリアン協会(AASL)は、共有している信念について、従来のAASLの基準と公式声明を見直しました。これらの文書と、全国の1,300人以上のスクール・ライブラリアンと関係者から集まった意見によって、よく準備のできた学習者、能力のあるスクール・ライブラリアン、ダイナミックな学校図書館の質を明確に表現できるようになりました。

前回の基準と同様に、今回の基準にも「共有している信念（Common Beliefs）」があります。共有している信念とは、よく準備のできた学習者、能力のあるスクール・ライブラリアン、ダイナミックな学校図書館の質をどのように定義するかを反映する、専門職の核となる価値観のことです。共有している信念は前回の基準にも示されていますが⁴⁾、この基準を改訂

する過程で、AASLの基準・ガイドラインの編集担当者たちは、今までのAASLの基準や公式声明を見直したり、スクール・ライブラリアンに意見を聞いたりして、共有している信念について再考しました。これらの文書と、全国の1,300人以上のスクール・ライブラリアンと関係者から集まった意見などを反映して、今回の基準では、次の六つの共有している信念が、専門職の核となる価値観として位置づけられました。

では、共有している信念は何かというと、

1. 学校図書館は、学習コミュニティにおいて独自で不可欠な存在です。
2. 資格をもったスクール・ライブラリアンが先に立って、機能的な学校図書館を実現します。
3. 学習者は、大学進学、キャリア、人生への準備をする必要があります。
4. 読むことは、個人的な能力と学力の中核をなしています。

- 5. 知的自由は学習者すべてがもつ権利です。
- 6. 情報テクノロジーは適切に統合され、公平にアクセスできるものでなければなりません。

という六つで、今回の基準では、これらが共有している信念として提示されています。

Common Beliefs
How do we define the qualities of well-prepared learners, effective school librarians, and dynamic school libraries?

IN THE STANDARDS revising process, the American Association of School Librarians (AASL) reviewed Common Beliefs from earlier AASL Standards and official AASL position statements. These documents, and feedback collected from more than 2,300 school librarians and stakeholders nationally, provided AASL with a clear expression of the qualities of well-prepared learners, effective school librarians, and dynamic school libraries. The following Common Beliefs and summary descriptions were identified as central to the profession.

1. The school library is a unique and essential part of a learning community.
学校図書館は、学習コミュニティにおいて独自で不可欠な存在です。
2. Qualified school librarians lead effective school libraries.
資格をもったスクール・ライブラリアンが先立って、機能的な学校図書館を実現します。
3. Learners should be prepared for college, career, and life.
学習者は、大学進学、キャリア、人生への準備をする必要があります。
4. Reading is the core of personal and academic competency.
読むことは、個人的な能力と学力の中核をしています。
5. Intellectual freedom is every learner's right.
知的自由は学習者すべてがもつ権利です。
6. Information technologies must be appropriately integrated and equitably available.
情報テクノロジーは適切に統合され、公平にアクセスできるものでなければなりません。

今回翻訳した学習者基準についてご報告します。新基準は、学習者の基準と、スクール・ライブラリアンの基準と、学校図書館の基準で構成されており、今回、私たちは、学習者向けの基準、「for learners」の部分のパンフレットを翻訳しました。『学習者、スクール・ライブラリアン、学校図書館の全国学校図書館基準』は冊子で販売されているものですが、このうち、学習者基準のパンフレットを AASL はインターネット上に無料で公開しています。

今回翻訳した基準は…

- for Learners 学習者
- for School Librarians
スクール・ライブラリアン
- for School Libraries 学校図書館

今回の基準の構造を把握するうえでポイントとなる要素が、「共有する基盤 (Shared Foundation)」、「主なコミットメント (Key Commitment)」、「学習領域 (Domain)」、「コンピテンシー/連携 (Competency/Alignment)」の四つです。Alignment については、私たちは「連携」という訳をあてましたが、これからこの4点について主に説明していきます。

ポイントとなる概念・用語

- Shared Foundation
共有する基盤
- Key Commitment
主なコミットメント
- Domain
学習領域
- Competency/ Alignment
コンピテンシー/連携

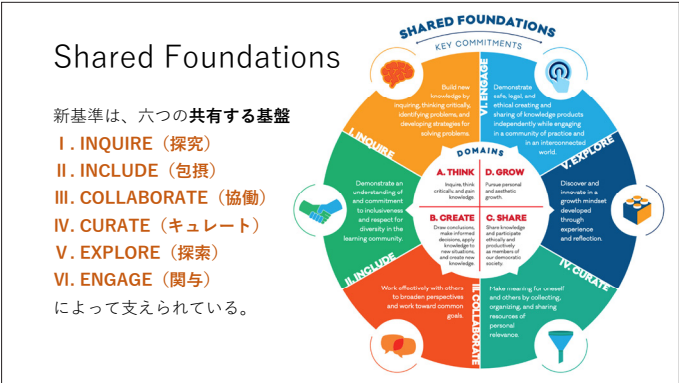
先ほど述べた四つの要素を基準フレームワークにあてはめると、表の横軸に共有する基盤が示され、その隣に主なコミットメントが記載されます。縦の軸には四つの学習領域があって、それぞれの学習領域と共有する基盤をかけ合わせたマス目のところにコンピテンシー、学校図書館の基準の場合には連携がある、というつくりになっています。

基準と照らし合わせると…

Shared Foundation		Key Commitment		
Domain	LEARNER DOMAINS & COMPETENCIES	SCHOOL LIBRARIAN DOMAINS & COMPETENCIES	SCHOOL LIBRARY DOMAINS & ALIGNMENTS	Domain
A. Think				A. Think
B. Create				B. Create
C. Share				C. Share
D. Grow				D. Grow

© 2018 American Library Association | Permission to use, reproduce, and distribute this document is hereby granted for private, non-commercial, and educational purposes only.

では、共有する基盤とは何かというと、新基準において、学習者、スクール・ライブラリアン、学校図書館の三者が共有する六つの基盤のことです。一つめが探究、二つめが包摂、三つめが協働、四つめがキュレート、五つめが探索、六つめが関与となっており、これらの六つの共有する基盤が、学習者、スクール・ライブラリアン、学校図書館が反映し発展させるべき価値観（core values）となっています。



主なコミットメントとは、先ほどの六つの共有する基盤それぞれについて、軸となるような重要な見解を一文で表現したものです。今回の基準には、学習者の基準、スクール・ライブラリアンの基準、学校図書館の基準があるとお話ししましたが、主なコミットメントは、これらの三つの基準すべてに共通しています。例えば、「探究」の主なコミットメント



は、「探究し、批判的に思考し、課題を特定して、そして課題を解決するための対策を練ることによって、新しい知識を形成します。」となっていますが、この一文によって、共有する基盤のひとつである「探究」とはどのようなものかが説明されています。主なコミットメントは、共有する基盤それぞれにおいて、三者が共通して取り組むべき内容、果たすべき責任について説明しているものです。

共有する基盤	主なコミットメント
I. 探究	探究し、批判的に思考し、課題を特定して、そして課題を解決するための対策を練ることによって、新しい知識を形成します。
II. 包摂	学習コミュニティにおいて、包摂と多様性の尊重に対する理解とコミットメントを示します。
III. 協働	他者とともに効果的に学習し、視野を広げて共通の目標に向かいます。
IV. キュレート	自身のニーズにあった情報資源の収集、整理、共有することで、自分自身と他者に対して意味をもたらします。
V. 探索	経験したり、省察したりすることで育まれる向上心をもって発見し、革新を遂げていきます。
VI. 関与	実践のコミュニティやつながりあう世界に参加しながら、安全に、正当に、倫理的に、知識の成果物を自立して創造し、共有することを示します。

学習領域は、表でいう縦の部分にある四つの領域、「思考」、「創造」、「共有」、「成長」を指しますが、各学習領域において、「思考」には認知的側面、「創造」には精神運動的側面、「共有」には感情的側面、「成長」には発達の側面が反映されています。学習領域は、Aの「思考」からDの「成長」まで続いていくように設定され、これらの四つの学習領域のなかで、スクール・ライブラリアンは、学習者がコンピテンシーを習得し、情報資源にアクセスし、ツールを用いてそれぞれの学習領域に取り組むことができるよう役割を発揮することが期待されます。

「共有する基盤」と「学習領域」をかけ合わせた一つひとつのマスに書かれている内容が「コンピテンシー」です。コンピテンシーとは、学習者やスクール・ライブラリアンにとっての不可欠な知識、スキル、姿勢のことであり、修得度合いを測ることができるように記述されています。共有する基盤それぞれにおける各学習領域は、三つから五つのコンピテンシーによってさらに説明されています。例えば、基準フレームワークにある「I. 探究」と「A. 思考」をかけ合わせた段階では、学習者やスクール・ライブラリアンにとっての不可欠な知識、スキル、姿勢について、二つのコンピテンシーによって説明されている、というような見方をします。学校図書館の場合は、学校図書館のコンピテンシー、あるいは、学校図書館がコンピテンシーをもつという表現は不自然なので、alignmentとして表現されます。alignmentの訳語については、はじめに、私たちは、「学校図書館のalignments」を「学習者のコンピテンシー」や「スクール・ライブラリアンのコンピテンシー」と並べたときにどのような意味になるのかを考えました。そして、学校図書館が学習者やスクール・ライブラリアンとどのように関わり、各学習領域でどのような役割を果たすのか、また、校内の他部局や校外の他機関と関わることでどのように機能するのかという意味がalignmentにはあるだろうと考え、「連携」をalignmentの訳語として選択しました。

この基準の使い方としては、主に二つの使い方が提案されています。まず、それぞれの利用に合ったガイドとして使う方法があります。学習者とスクール・ライブラリアンは、学

Domains (学習領域)

A Think (思考)

探究し、批判的に思考し、知識を獲得します。認知的領域。

B Create (創造)

結論を導き、情報に基づいた決定をし、知識を新しい場面に応用し、新しい知識を創造します。精神運動的領域。

C Share (共有)

知識を共有し、倫理的かつ効果的に民主的な社会の構成員の一人として参加します。感情的領域。

D Grow (成長)

個人の美的成長を追求します。発達の領域。

Competencies (コンピテンシー)

- **コンピテンシー**とは、学習者やスクール・ライブラリアンにとって不可欠な知識、スキル、姿勢を測ることができるように記述されたもの。共有する基盤の学習領域は、三つから五つのコンピテンシーによってさらに説明されている。
- 学校図書館の場合は、コンピテンシーは **alignment (連携)** として表現される。

AASL Standards Framework			
SHARED FOUNDATIONS AND KEY COMMITMENTS			
FOUNDATIONAL COMPETENCIES	THINKING	CREATING	COLLABORATING
A. THINK	Identify, analyze, and evaluate information and its sources.	Use information to create new knowledge and products.	Work with others to share information and resources.
B. CREATE	Use information to create new knowledge and products.	Use information to create new knowledge and products.	Work with others to share information and resources.
C. SHARE	Work with others to share information and resources.	Work with others to share information and resources.	Work with others to share information and resources.
D. GROW	Work with others to share information and resources.	Work with others to share information and resources.	Work with others to share information and resources.

基準はどのように活用されるか？ (1)

1. それぞれの利用に合ったガイドとして。

学習者とスクール・ライブラリアンは、学習課題や専門職の活動に最も適しているところからはじめ、特定のコンピテンシーを伸ばす方法を決めるために基準を使う。

2. 進歩を示すものとして。

学習者とスクール・ライブラリアンは、まず、「思考」の学習領域の段階から取り組み、「思考」にかかわるコンピテンシーの習熟が達成されたから、「創造」、「共有」そして「成長」に進む。

習課題や専門職の活動に最も適しているところからはじめ、特定のコンピテンシーを伸ばす方法を決めるために基準を使う、というような、どこからはじめてもよいという考え方で。もうひとつが、進歩を示すものとして使う方法です。学習者とスクール・ライブラリアンは、まず、「思考」、学習領域の A の段階から取り組み、「A. 思考」にかかわるコンピテンシー

の習熟が達成されてから、「B. 創造」、「C. 共有」、そして「D. 成長」に進むというような、段階的な使い方をすることもできるとされています。

また、この基準はカリキュラムではなく、その学校での優先すべきことやニーズに合わせてカリキュラムを展開できるようガイドし、枠組みを提供するものです。スクール・ライブラリアンは、学習のリーダーとして、各学習領域で説明されているコンピテンシーを実行し、模範を示して、伝えていく役割を担います。学習領域にもとづいたアプローチは、スクール・ライブラリアンが専門的な実践や成長を自分のものにして、学校図書館をその学校のニーズや学習者の成長に常にあわせられるような活用方法ができるようになっていきます。

最後に、『学習者、スクール・ライブラリアン、学校図書館の全国学校図書館基準』本体の概要を簡単に紹介します。基準全体は、第1部から第4部までに分かれており、全15章構成で最後に付録がついています。第1部では、新基準公開までの歴史の変遷や新基準の構造や定義が説明され、学習者、スクール・ライブラリアン、学校図書館の基準それぞれについて紹介されています。

第2部では、学習者、スクール・ライブラリアン、学校図書館が共有する六つの基盤ごとに章が立てられており、三者の基準を統合した基準統合フレームワーク(Standards Integrated Framework)が提示されています。これについては次のスライドでも説明します。スクール・ライブラリアンが基準を効果的に導入するのに使える実践の方法も示されています。第3部では、学習者やスクール・ライブラリアンの成長や学校図書館を評価する方法について紹介されています。コンピテンシーに基づく教育の目的は、一人ひとりに合った学習経験を通して学習者の成長を支えることです。自らが使うアセスメントや評価のツールを作る際に、学校や学区が作ったものを AASL 基準に沿った形にするための事例が提示されています。第4部では、現実によりえる状況を描いたシナリオが紹介され、学区の監督者と各学校のスクール・ライブラリアンが基準をどのように行動にうつすことができるかを思い描くことができます。

そのうち第2部の基準統合フレームワークについて、学習者基準のパンフレットでも触れられているので紹介します。第2部では、六つの基盤ごとに基準統合フレームワークが提示され、三者の「コンピテンシー」もしくは「連携」が記述されています。共有する基盤、主

基準はどのように活用されるか？(2)

- AASLの基準はカリキュラムではなく、その学校での優先すべきことやニーズに合わせてカリキュラムを展開できるようガイドし、枠組みを提供するもの。
- スクール・ライブラリアンは、学習のリーダーとして、各学習領域のコンピテンシーを実行し、模範を示して、伝えていく役割を担う。
- 学習領域に基づくアプローチは、スクール・ライブラリアンが専門的な実践や成長を自分のものにして、学校図書館をその学校のニーズや学習者の成長に常にあわせられるようになっている。

基準全体の構造

- 第1部：INTRODUCTION AND OVERVIEW
導入と概要
- 第2部：STANDARDS INTEGRATED FRAMEWORKS
基準統合フレームワーク(探究、包摂、協働、キュレート、探索、関与)
- 第3部：ASSESSMENT AND EVALUATION
達成、成長を評価するための細やかなアプローチ
- 第4部：SCENARIOS FOR PROFESSIONAL LEARNING
現実によりえる状況を描いた事例

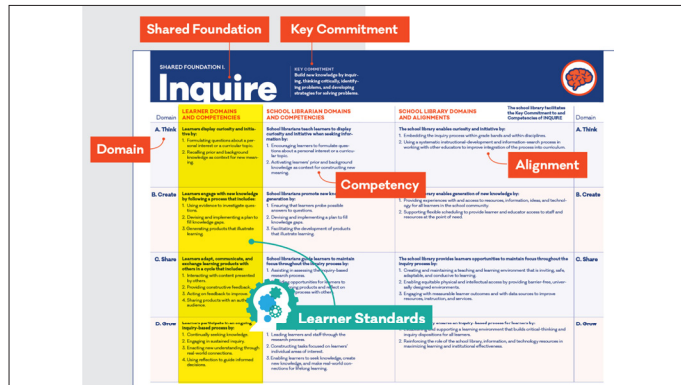
なコミットメント、学習領域は、学習者、スクール・ライブラリアン、学校図書館の三つの基準のすべてを横断して現れていて、学習者の学びが、どのようにスクール・ライブラリアンの実践と学校図書館の環境と関係しているのかについて明確になっています。

今回翻訳したパンフレットには、共有する基盤のうち「探究」の基準統合フレームワークが例示されています。基準統合フレームワークは、六つの基盤それぞれに対して、学習者のコンピテンシー、スクール・ライブラリアンのコンピテンシー、学校図書館の連携がわかるようなフレームワークになっています。

私からはここまでとさせていただきます。ありがとうございました。

基準統合フレームワーク（第2部）

- 学習者、スクール・ライブラリアン、学校図書館の基準の三つを統合したフレームワーク
- 六つの基盤ごとに、三者のコンピテンシーもしくは連携が示されている。
- 共有する基盤、主なコミットメント、学習領域は、学習者、スクール・ライブラリアン、学校図書館の三つの基準のすべてを横断して現れている。
- 学習者の学びが、どのようにスクール・ライブラリアンの実践と学校図書館の環境と関係しているのかについて明確になっている。



- 1) アメリカ・スクール・ライブラリアン協会特設ページ <https://standards.aasl.org/>, (参照 2021-03-28).
- 2) 大城善盛、坂下直子「学習者、学校図書館員、学校図書館のための全米学校図書館基準：フレームワークを中心とした分析」『図書館界』72(2), 2020.7, p. 89-95.
中島幸子、坂下直子、大城善盛「AASL「新学校図書館基準」の概要と意義」『Journal of I-LISS Japan』2(2), 2020.3, p. 12-22.
中村百合子「米国学校図書館員協会による新学校図書館基準<文献紹介>」『カレントアウェアネス-E』No. 3 43, 2018.3.8.
- 3) スライドで紹介した論考以外に、柳勝文による連載「教育時評 266 新しいアメリカの学校図書館基準 (1)」『学校図書館』第 842 号, 2020.12, p. 54-55. が開始されている。
- 4) 「米国学校図書館員協会、「21 世紀の学習者のための基準」を公表」『カレントアウェアネス-E』No. 117, 2007.11.14. <https://current.ndl.go.jp/e718>, (参照 2021-03-31). によると、2007 年に公開された基準では以下の九つの信念が提示された。
 - 読書は世界に繋がる窓である。
 - 質問は学習のための枠組みを与える。
 - 情報利用における倫理的な振る舞いを教えなければならない。
 - テクノロジーに関するスキルは将来の雇用のために不可欠である。
 - (情報への) 公平なアクセスは教育にとって鍵となる要素である。
 - インフォメーションリテラシーの定義は、情報資源とテクノロジーの変化に伴ってますます

複雑化している。

- ・情報が拡大し続けていることにより、個々人が自分自身の力で学習するための思考能力を身につけることが求められている。
- ・学習には社会的コンテキストが存在する。
- ・学校図書館は学習スキルの発達にとって、必須のものである。